

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和 8 年 4 月 27 日

団体所在地 広島市佐伯区五日市5丁目 6-25

団体の名称 株式会社 桜の杜

職・氏名 代表取締役 東 真弓美

(施設名 さくらの杜 SKY 保育園)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

春見つけを楽しむ。シロツメクサの花冠や髪飾り。オオアラセイトウやホトケノザ、マツバウンランの紫色の花々でおしゃれさんに変身です。ヨモギなどで色水遊びをした。山では春に目覚めた生き物を見つけて観察をした。芽吹いた木々の芽や葉で色々な遊びをした。

【7月～9月】(夏季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・三篠川での川あそび
- ・川の中の生体を知る(川魚、川辺のいきもの)
- ・川には危険があることを知らせる(流れ、深み)
- ・休耕田そばの用水路にいる生き物の生体を知る(カエル、カニ)
- ・七夕まつりを里山で開催
- ・サツマイモの水やり

【10月～12月】(秋季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・サツマイモの水やり
- ・サツマイモ堀り
- ・焼き芋体験
- ・山の中での木の実(ドングリ・松ぼっくり他)や落ち葉を拾い自然物を使い製作する
- ・自然散策

【1月～3月】(冬季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・山遊び
- ・火おこしの仕方(山の中で松ぼっくり、小枝、太い木を集めて使用する)
- ・焚火を使って大鍋で米を炊いておにぎりで食べる
- ・節分会を里山で開催
- ・自然散策

活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】

(写真)



(エピソード記述)

春を見つけにさくらの杜白木へ行きました。新緑がきれいでみんなで休耕田へ行き、たくさんの草花を摘みました。食べることのできるヨモギを子どもたちと一緒に摘んで天ぷらにしました。普段の生活ではなかなか野草を採ってすぐに調理して食べることをしない子どもたちは食べる時も普段食べ慣れない味で「苦いね」「これ、食べれるんだ～」と子ども同士が話し、自然にある野草で食べれるものもあることを伝えることができ食育にもつなげることができた。シロツメクサをたくさん摘んでいた子どもは束を作ったり保育者にシロツメクサの首飾りを作ってもらい首からかけて嬉しそうに笑顔を見せ、しっかり遊び、春を楽しんでいました。

【7月～9月】

(写真)



(エピソード記述)

さくらの杜白木から園バスで三篠川へ移動し、浅瀬で川遊びをしました。保育者と一緒に川の中にいる魚や石についている生きものを見たり触ったり網を使って嬉しそうに遊ぶことができました。ライフジャケットを着ているので水面に上を向いて上手に浮かんで楽しむことができました。時々、身体のバランスが崩れてひっくりかえり「びっくりした～」と言う子どもがいましたが川での遊びは楽しいことだけではなく予期しない危険なこと（川の流れ、深み）があることも子どもたちに知らせることで遊びのルールを守りながら自然の中の川で遊ぶ楽しさを感じられる活動になりました。

【10月～12月】

(写真)



(エピソード記述)

春に苗を植えたサツマイモが大きく育ち、待ちに待った収穫日。最初にツルをひっぱってみる。思いのほかが出てこず「いもがでてこんね」と言いながらツルを除いた後に土の感触を感じながら土を手で掘っていく子どもたち。少しいもが見えると「おいも出てきたよ」と嬉しそうに手でかき出し、芋を手にする。芋がとれたときの子どもたちは満面の笑みでした。掘りたての芋は休耕田に子どもたちみんなで運び、新聞紙とアルミホイルにくるんですくもの中に入れて焼き芋作りも行いました。すくもに入れて出来上がった焼き芋を子どもたちが手になると「熱いね」「おいも、甘いね」と嬉しそうに子ども同士が話しながら食べる楽しい活動でした。

【1月～3月】

(写真)



(エピソード記述)

休耕田にかまどを作って子どもたちと一緒に大鍋で米を炊くことにしました。お米を炊くにはかまどの火おこしをするグループとお米を洗うグループに分かれます。山で松ぼっくりや枯葉、小枝、太い木を子どもたちと一緒に集めてかまどに山盛りにします。火が点くと太い木を入れることで焚き火になったので大鍋でお米を研いで水を入れたもののかまどまでみんなで運ぶ。ご飯が炊けるまでは火のそばで小枝などを入れながら火が消えないように保育者と一緒に様子を見て待つ。自分たちで炊いたご飯は格別だったようで何度もおかわりをしていました。かまどで炊いたご飯は焦げた部分もありましたがその焦げたご飯を嬉しそうに食べる子どもの表情が印象的でした。「自分たちで作ったご飯」は子どもたちにとっても自信経験につながりました。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

（例）こども環境管理士を担当保育士が取得（12月）

- ・ 子どもたちの安全を第一に考えながら活動の場の整備や職員の研修を定期的に行うことで職員が誰でも白木の活動を意欲的に保育をする
- ・ 危機管理研修に積極的に参加し危機管理に対しての向上を図る

- ・ 地域との関わりについて

（例）専門知識のある地域の方に園庭のぶどうの木の選定や野菜づくりを月一回交流（毎月）

- ・ 地域に在住の専門知識のある方に子どもたちが使っている休耕田の整備や山の整備の仕方を教えていただいたり、サツマイモの畑の土づくり、畝づくり、苗の植え方、芋ほり、焼き芋などを行い交流する

- ・ 保護者との関わりについて

（例）果物や野菜を保護者と一緒に収穫（毎月）

- ・ 子どもたちが現地で見つけて採った自然物を袋に入れて園に持ち帰り、保護者と一緒に見たり触ったりする（毎月）

- ・ その他

＊より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

U R L	http://sakuranomori-smile.com
-------	---